



平成 28 年 10 月 11 日

会 報 第 3 号

会津「The13」事業協議会 第 2 回 検討委員会・勉強会

発行：会津「The13」事業協議会

事務局 〒965-0873 福島県会津若松市追手町 5 番 36 号

TEL 0242-29-1910 FAX0242-29-5916 E-mail g-ryohei@adoken.co.jp

この号の内容

- 1 開催日
- 2 あいさつ
- 3 先行事例視察報告
- 4 勉強会
「地域における森林林業ベンチャー起業と人材育成について」
秋田県立大学 木材高度加工研究所
教授 高田 克彦 氏
- 5 検討委員会
「川中（製材所、CLT 工場、プレカット等）の課題と、解決策の検討」
アルファフォーラム 小林 靖尚 氏
- 6 事務局より
西会津町 森林資源活用型産業化
計画策定委員会
先進事例調査参加報告

1 開催日

1. 日時：平成 28 年 10 月 4 日（火）14:00～17:00
2. 場所：ルネッサンス 中の島 3F ロイヤルホール イースト
福島県会津若松市上町 2 - 38 TEL 0242-24-5151
3. 先行事例視察報告
（石川県小松、福井県あわら 各バイオマスボイラ施設）
事務局 小林 靖尚
※ 委員、行政、企業より 18 名のご参加をいただき実施できましたことに御礼申し上げます。
4. 勉強会（講演）
演題「地域における森林林業ベンチャー起業と人材育成について」
公立大学法人 秋田県立大学 木材高度加工研究所
教授 高田 克彦 氏
5. 検討委員会
テーマ「川中（製材所、CLT 工場、プレカット等）の課題と、解決策の検討」
アルファフォーラム 代表取締役社長 小林 靖尚 氏

次回スケジュール

第 3 回 検討委員会・勉強会

日時：平成 28 年 11 月 15 日（火）

場所：福島県ハイテクプラザ

会津若松技術支援センター

内容

勉強会（講演）：演題未定

東京大学千葉演習林

助教 當山 啓介 氏

検討委員会

・川上（森林経営～林業）の課題
と、解決策の検討

・13 市町村で取り組む事業の特徴
について

詳細が決定次第ご連絡いたします
ので、その際はご出席賜りますようお願いいたします。

2 あいさつ

1. 菅家副理事長の挨拶





この度の検討委員会・勉強会開催は、新聞による一般の皆様への告知を実施し、委員、行政、準会員、一般来場者を合わせ約100名のご参加をいただき、森林資源活用による循環型地域経済創生に対する関心の高さが確認されたと同時に、本事業協議会の使命の重要性を再認識した。

3 先行事例視察報告



9月12日(月)～13日(火)に実施した、先行事例視察実施に関する報告を会報:先行事例視察を使用し事務局より説明した。

12日:コマツ粟津工場内バイオマスボイラー施設、美松内バイオマスボイラー施設、カンファレンス オープニングセッション、レセプション

13日:三国観光ホテル内バイオマスボイラー施設
シンポジウム、フィールドワーク(施業現場:タワーヤーダー、他)、WOOD バイオマスセンターさかい

4 勉強会



演題「地域における森林林業ベンチャー起業と人材育成について」
公立大学法人 秋田県立大学 木材高度加工研究所教授 高田 克彦 氏

-林業の成長産業化と地方創生に向けて- とのサブタイトルで、地球環境問題である CO2 削減から問題を提起し、森林資源活用が重要な事業であるか、また本事業が地域産業として継続的に事業するには如何に人材育成が必要であるかを様々なプロジェクト経験談を交えながら説明いただいた。

5 検討委員会

1. 検討委員会



テーマ「川中(製材所、CLT工場、プレカット等)の課題と、解決策の検討」
アルファフォーラム 代表取締役社長 小林 靖尚 氏

川中(製材所、CLT工場、プレカット等)の説明に当たり、伐採した木材の m^3 (立米)から利用用途別にどれだけの比率(m^3)で利用できるかを、フローチャートで説明いただき、森林資源100%活用の流れを理解することができた。また、ラミナ製造に関しては、最新の無人化製材ライン(コンピューター管理)からCLT製作までのビデオ(CLTができるまで 製作:キクカワエンタープライズ株式会社)を上映し、如何に製造コストを抑え、工業製品レベルのCLTを製造しなければならないかを実感した。

質疑応答の時間には、材の収量、事業の規模、スケール感等に関するご質問をいただき、歩留まり率をいかに抑えるかにより全体収益に大きな影響を与えるかが理解できた。

次回は、川上(林業経営:森林伐採、植林)における循環型地域経済構築の流れに関し説明予定。

6 事務局より 西会津町 森林資源活用型産業化計画策定委員会 先進事例調査参加報告

本協議会事務局の後藤は、福島県CLT推進協議会事務局として、平成28年10月5日(水)~7日(金)の3日間、西会津町森林資源活用型産業化計画策定委員メンバーとして群馬県:上野村、福井県:あわら市への先進事例調査参加いたしましたので以下ご報告いたします。

西会津町は、本年度地方創生加速化交付金事業「CLT 等森林資源を活用したしごとづくり推進事業」が採択され、平成 28 年 9 月に森林資源活用型産業化計画策定委員会を設置した。

本委員会は、町内の森林資源を活用し、キノコ栽培用菌床の原料供給と木質バイオマス燃料化、CLT 用材の供給等、複合的な利用を進め、菌床キノコの大規模産地化を実現するとともに、森林資源を活用した新たな産業、雇用創出を目的に設置された。

本先進事例調査は、森林資源の 2 つの活用事例について調査を実施した。

1. 上野村: 木材搬出 → オガ粉 → 菌床製造 → 菌床キノコ栽培
2. 上野村、あわら市: 木材搬出 → ペレット化・チップ化 →

バイオマスボイラー → 熱利用

※上野村ではペレットのガス化による発電にも利用

特に、上野村における菌床製造・菌床キノコ栽培施設は、端材(ホワイトウッド)の 100% 利用を実現した施設で、木材 → 菌床生産、**菌床販売** → **菌床キノコ栽培・キノコ販売** → 使用済菌床を乾燥、焼却 → **熱利用**と、木材から原料、商品を生産する、まさに森林資源有効活用のあるべき姿を行政主導でシステム化、事業化したものである。



オガ粉 (原料)



オガ粉調合



菌床製造 (自社、販売)



キノコ菌床栽培
(シイタケ)



キノコ収穫、菌床再利用

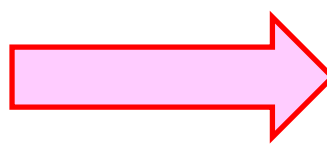


菌床乾燥後焼却



菌床焼却

熱源として再利用



菌床栽培施設

会津における森林資源活用の道は始まったばかりであり、先進事例を理解・吸収し、この会津の地に合った形で再構築することが会津版地域循環型経済創生につながると確信した。

同じ森林資源活用を目指す本協議会も共に知恵を出し合い、産官一体となって更なる森林資源活用の検討を進めていきたい。

※平成 28 年 10 月 7 日

喜多方市(他 12 市町村)提出

総務省 分散型エネルギーインフラプロジェクト・マスタープラン策定事業 採択
産官が一体となる新たなプロジェクトがスタートいたしました。

会津「The13」事業協議会

第2回 検討委員会・勉強会（実施日：平成28年10月4日）

福島民報新聞
平成28年10月7日掲載

(第三種郵便物認可)

木材産業の課題に理解

会津「The13」事業協が勉強会



森林資源の活用法などを説明する高田教授(左)

資源の活用法学ぶ

会津地方十三市町村の「会津「The13」事業協議会」の第二回検討委員会・勉強会は、企業などで組織する「会津「The13」事業協議会」の第二回検討委員会・勉強会は、企業などで組織する

四日、会津若松市のルネッサンス中の島で開かれた。木材産業の人材育成に向けた課題、製材所や直交集成板（CLT）工場などの現状に理解を深めた。

会員や一般聴講者ら合わせて約百人が参加し、菅家洋一副理事長があいさつした。秋田県立大木材高度加工研究所の高田克彦教授が「地域における森林業ベンチャー起業と人材育成について」と題し講演した。高田教授は

地域の实情に合わせた森林資源の有効活用や、二十年後を見据えた人材育成の重要性を訴えた。

引き続き、アルファフォーラムの小林靖尚社長が製材所やCLT工場の国内外の稼働状況、製造コストなどについて説明した。

出席者は会津地方での活用に向けて、メモを取るなど真剣な様子で聞き入っていた。

講演に先立ち、事業協議会が九月に石川、福井両県で実施した先行事例視察の内容や成果についての報告があった。

福島民友新聞
平成28年10月7日掲載



会津の森林資源活用

今後の方向性を探る

会津の豊かな森林資源を最大限に活用し、木質バイオマス燃料などの普及による雇用創出や地域振興を目指すそうと7月に発足した「会津「The13」事業協議会」（理事長・唐橋幸市郎、会津喜多方商議所会頭）は4日、会津若松市のルネッサンス中の島で第2回検討委員会・講演会を開き、出席者らが今後の方向性を探った。写真。

同協議会は会津地方振興局管内の商工団体や農業団体、企業などをつくり、市町村も足並みをそろえる官民一体の組織。今後の方向性を探る検討委員会は8月に続く2回目。

同日は9月に実施したコマツ栗津工場（石川県小松市）と美松内バイオマスポイラー施設（福井県あわら市）の先行事例視察の報告が行われたほか、秋田県立大木材高度加工研究所の高田克彦教授が「地域における森林業ベンチャー起業と人材育成について」と題して講演した。木材の中間加工の製材やプレカットの現状を整理し、課題や解決策を探る検討委員会も開かれた。

会津でバイオマスタウンと木材コンビナート構想

原木25万³m消費、熱利用とラミナ製造計画

会津The13事業協議会

福島県会津地方の13市町村の商工会議所や農業団体、企業などをつくる会津「The13」事業協議会は、地元の森林資源を活用した地域活性化策として、バイオマスタウンと木材コンビナートの整備を構想している。消費する原木は年間25万立方メートル、このうち15万立方メートルはバイオマス熱供給と発電に用い、10万立方メートルは新設する製材工場に投入して年間5万立方メートルのラミナを製造し、県内で新設の構想があるCLT工場に販売する計画だ。実現に向けて今後、製材工場の新設場所や、チップボイラを導入する施設の検討が進められ、年内に一定の方向性が示される見通しとなっている。

会津地方13市町村の合は少ない。建築用材の産量を現状の約5倍に引き上げ、製材やチップ再生可能エネルギー固定価格買取制度において1kW当たり40円で販売し、熱供給は13市町村内に300kW程度の小・中規模チップボイラを約100カ所設置する計画だ。

素材生産の拡大は、間伐の促進とともに、主伐・再造林による効率的な増加が計画されている。同協議会のアドバイザーを務める小林靖尚アルファフォーラム社長は、「会津の木を伐って使っているという認識作りがまず重要」と述べ、13市町村が所轄している有林で実践が見えることが重要と指摘している。

同協議会は今年7月に発足し、喜多方市、会津若松市、会津坂下町、会津美里町、西会津町、金山町、三島町、柳津町、磐梯町、猪苗代町、湯川村、昭和村、北塩原村の商工会議所が中心となり、理事長に会津

会津「The13」事業協議会 第2回 検討委員会・勉強会



「13市町村が集まることで、利益が出る規模になる」と連携の重要性を語る菅家副理事長

喜多方商工会議所会頭の唐橋幸市郎氏が、副理事長には会津土建社長で日本CLT協会の理事でもある菅家洋一氏が就任している。

林業・木材産業とは異なる商工会議所が主軸となっている点が大きな特徴。そのため参加者は、8月から12月まで計4回の勉強会を通して小林社長や研究者から森林・林業や木材産業について現状や課題を学ぶほか、9月には石川と福井でバイオマス熱利用の事例を視察し、伐採現場からチップ製造、ボイラ導入施設も見学した。

菅家副理事長は「視察した事例は、行政と地元企業と森林組合の連携が成功のキギとなっていた。会津地域でも良い点を取り入れ、森林を活用した地域創生を実現したい。木材活用の推進は国の施策で、特にCLT関連の予算は積極的に組まれている。我々は良いタイミングで活動を始めたと思う」と意欲を語った。

以下の小規模発電で、再生可能エネルギー固定価格買取制度において1kW当たり40円で販売し、熱供給は13市町村内に300kW程度の小・中規模チップボイラを約100カ所設置する計画だ。

素材生産の拡大は、間伐の促進とともに、主伐・再造林による効率的な増加が計画されている。同協議会のアドバイザーを務める小林靖尚アルファフォーラム社長は、「会津の木を伐って使っているという認識作りがまず重要」と述べ、13市町村が所轄している有林で実践が見えることが重要と指摘している。

同協議会は今年7月に発足し、喜多方市、会津若松市、会津坂下町、会津美里町、西会津町、金山町、三島町、柳津町、磐梯町、猪苗代町、湯川村、昭和村、北塩原村の商工会議所が中心となり、理事長に会津

集成材

FSC SGEC
FSC® C121388 SGEC® 31-31-1007
「緑の環境」 お問い合わせ下さい

TSC 株式会社 ティ・エス・シー
〒292-0838 千葉県木更津市潮浜2-1-53
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349
ホームページ <http://www.syusei-tsc.com>

日刊木材新聞
平成28年10月12日掲載